JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	輪湖みちよ	学校名	東京都 板橋区立　　板橋第三中学校
担当教科等	社会科	対象学年（人数）	３年（131 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2020 年８月～10 月（15 時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間

2. 単元(活動)名：中学生のチカラを発揮した探究活動

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「中学生のチカラ」
単元目標（評価）：
（１）学ぶ・鍛える／
興味・関心に基づく課題を仲間や教員、地域の方々と協働しながら探究し、学んだことや考えたことを表現することができる。
（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容、自己 PR カード、面接表）
（２）思いやる／
仲間や教員、地域の方々と対話や協働をする中で多様な個性に気付き、共に生きる社会を築くために大切な姿勢や自分にできることを考え（行動す）る。
（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容、自己 PR カード、面接表）

関連する学習指導要領上の目標：

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに，学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。各学校においては，目標を踏まえ，各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

4. 単元の評価規準	①知識及び技能	探究の基礎・基本となる各教科の知識及び技能を身に付ける。
	②思考力、判断力、表現力等	探究を通して学んだことや考えたことを表現することができる
	③学びに向かう力、人間性等	興味・関心に基づき探究課題を設定し、対話や協働を通して課題解決を行っていく姿勢を身に付ける

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】【単元の意義】【児童／生徒観】【指導観】 コロナウィルス感染防止の観点から全ての行事が原則中止となった。それに伴い、生徒は学び合い・鍛え合い・認め合いの機会が減少し、これまで当たり前だった「思い出」は得られなくなった(1)。キャリア教育で育むことが期待される資質・能力からすると、自分の良さや個性を知る「自己理解力」や仲間との協働を通して課題を解決する「課題解決力」「人間関係・社会関係形成力」の育成に課題が生じている。直近の課題として、入試で行われる「面接」や「自己 PR カード」で答える内容が限定されてしまい、生徒の良さや個性が活かせないということがある。また、教員からすると授業以外で生徒の良さや個性を発見する機会や関わり合う場が減少し、多面的に生徒を理解することが困難になっている。令和２年７月に行われた文部科学省初中分科会で提出された「『ポストコロナ』を見据えた新しい時代の初等中等教育の在り方について」(2)の ICT 環境よりも生徒と教員との「つながり」が休校中の学習時間に関わっていたという分析からは、関わり合いの減少が生徒の学ぶ意欲に影響することも危惧される。一方、本校では生徒が休校中に「先生方へのメッセージ」を集約するなど「自分たちにできることをしたい」という主体的な行動が生まれていた。教員も限られた時間数の中で学習を保障すべくカリキュラム・マネジメントに取り組んだり、生徒に向けて新しい学習者として「自立（律）的学習者」の姿を紹介したりと創意工夫を行っている。 このような生徒と教員の力を合わせれば、生徒の主体的な学びの機会・生徒間や生徒と教員、生徒と地域の方々など多様な他者との対話的な学びの機会を保障すること、生徒が各教科で身に付けた見方・考え方を活用しながら探究を繰り返すことで深い学びを体得していくことができるのではないかと考えた。 そこで、生徒と教員が興味・関心を基にチームを組み、探究を行う(3)。生徒が中心となって学んだことや感じたこと・考えたことをオンラインや展示で表現する「中学生のチカラプロジェクト」を総合的な学習の時間の内容として実施することとした。 尚、全国学力・学習状況調査の結果分析(4)から、総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる生徒ほど教科の平均正答率が高いことや、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」（挑戦心）・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」（達成感）ともに肯定的に回答した生徒ほど主体的に学ぶ姿勢が身に付いていることが明らかになっている。そのため 15 時間を配当し、探究の時間が確保できるようにした。

6. 単元計画（全 15 時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 ～ 2	課題設定	教員のプレゼンテーションを参考に、自分の興味・関心に基づいた課題を設定することができる	教員によるプレゼンテーション（オンライン） A　福祉・介護、伝統文化 B　継続した取組がもたらす身体能力の向上 C　生活に役立つものづくり D　科学の視点で社会をとらえる E　科学技術の発達 F　人間の不思議・言語の不思議 G　持続可能な地域とは 生徒による課題設定・事前アンケート	各教員作成のプレゼンテーション資料 アンケートに基づくグループ分け

3 本時	各グループでの探究活動	地域探検により、地域の特色をつかむ	（これより G グループの活動） 地域探検①（写真撮影・インタビュー）	
4 ~ 11	各グループでの探究活動	地域の特色を探検やインタビューを通してさらに深め、収集した情報を選択・分析、活用してまとめる	地域探検①で気付いたことの共有・情報交換 課題設定 地域探検②（インタビュー） 地域探検②で気付いたことの共有・情報交換 文献資料やインターネットによる情報収集 情報の分析、活用 まとめ、グループ内発表	板橋区公文書館資料 商店街 MAP
12 ~ 14	発表	オンラインやポスターによる発表を行う	プレゼンテーション（オンライン発表） ポスター発表（体育館に展示） 相互評価	進路説明会と合わせて行い、保護者にも見てもらう
15	振り返り	取組を振り返り、身に付いた力、発揮した力を自己評価する	自己評価 事後アンケート	

7. 本時の展開（３時間目）

本時のねらい：地域探検を行い、各自の興味・関心に基づいて地域の特色を発見する

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 （５分）	問い「地域探検に行く目的は何だろう」 「地域探検で気を付けること・大切なことは何だろう」・フィールドワーク	安全確保、インタビューや写真撮影時のマナーについて確認する。	地域の地図（10000 分の１） デジタルカメラ
展開 （40分）	事前に聞いた生徒の興味・関心を基に、地域探検の範囲を設定する 問い「なぜ〇〇の写真を撮ろうと思ったのか」 「〇〇を見てどのようなことを思う・気づく・考えるか」・興味・関心に基づき写真を撮影したりインタビューを行ったりする	フィールドワーク中は生徒の安全確保を第一に見守り、必要に応じて質問や助言を行う	
まとめ （５分）	問い「地域探検で印象に残ったことは何か」 「次回追究したいことは何だろう」 フィールドワークの感想を一人一言ずつ言う	個人の気付きを尊重し、個人や地域の多様性に気付くことができるようにする	ワークシート

8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ①探究の基礎・基本となる各教科の知識及び技能を身に付ける（取組の様子、ワークシート） ②探究を通して学んだことや考えたことを表現することができる（発表・展示内容） ③興味・関心に基づき探究課題を設定し、対話や協働を通して課題解決を行っていく姿勢を身に付ける（取組の様子、ワークシート、発表・展示内容）
9. 学習方法及び外部との連携 フィールドワーク（地域探検）で生徒が興味・関心をもったことについて、インタビューによって調査を行った。インタビュー相手は生徒に「何のために、何を知りたいか。」を問い、検討した。管理職に相談した結果、地元町会の役員と商店街の店舗にインタビューを行うことにした。また、生徒の中には通行人にインタビューをしたいという生徒も多かったため、事前にインタビュー内容や対象を設定した上でインタビューを行うように助言を行った。さらに、地域の歴史等インターネットや書籍ではなかなか情報が得にくい分野については、板橋区公文書館に問い合わせ資料を貸し出していただいたり、画像を提供していただいたりした。 フィールドワークで発見したことを基に、インタビューや文献調査を行ったことにより、生徒は身近な地域の魅力を再発見したり、課題に気付いたりしていた。インタビューを重ねて行うことで町会役員の方が自分で調べた資料を提供してくださるなど、交流を通して地域の方々の思いやりに気付く生徒もいた。
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 学校内では生徒の学習活動や発表を他学年の教員も参観し、取組について興味をもっていた。本校のHP や校長通信、学年だよりにおいても、チカラプロジェクトについて取り上げることで他学年の生徒や保護者、地域に発信する機会となった。学校外については、町会や商店街店舗の方にインタビューを行うことで学習活動に興味・関心をもってもらう機会となったと考えている。 授業実践を広める取組としては、ESD や SDGs に取り組む教員の集まりや研修会等で実践報告を行った。

【自己評価】

11. 苦労した点	○課題設定 学年所属教員の専門教科や興味・関心と生徒の興味・関心が全員一致するわけではないので「自分の興味は○○だけれど、どのグループかわからない」「△△について追究したいのだけれど、できますか」といった生徒の声が聞かれた。一週間ほど相談期間を設け聞き取りの上でグループ分けを行った。 ○教員間の連携 苦労というよりは、力を注いだ点である。８月に学年会で提案するまでの間に事前インタビューを各教員に行い、その内容に基づき探究学習で身に付けたい資質・能力や学習形態についての案を作成した。提案の根拠となる諸資料も集め、学年所属教員が納得して指導にあたれるように力を注いだ。

12. 改善点	秋と卒業期に探究のサイクルを２回実施する計画を立てていたが、他の取組との関係上叶わなかった。その結果、学習の深まりに課題があったと考えている。今後実施する際には、一学年からの積み重ねによる実践や学校全体で成果を共有しながら実践を積み重ねる長期計画を立てることが望ましいと考える。また、総合的な時間と各教科の学びをどのように往還させていくかを検討し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことが必要である。その上で、生徒や保護者に学習活動のねらいや意図、評価について伝えることで、総合的な学習の時間においても連携の上で学習活動に取り組むことができると考えている。さらに、コミュニティスクールの機能を活かし、地域との協働を推進することが社会に開かれた教育課程につながると考える。
13. 成果が出た点	○主体的な学習・自己理解、相互理解 生徒も教員も得意分野や興味･関心を活かした探究学習を楽しみながら行うことができた。探究を協働で行ったり、発表し合ったりする中で自他の個性を尊重し、認め合うことができた。 ○教員間の連携 中学校は教科担任制のため、授業についての意見交換や情報交換があまり多いとは言えない。今回、教員がプレゼンテーションをし、それを参考に生徒が課題設定を行うという学習活動の流れによって、教員が互いの「生徒観」「指導観」を自然と話す機会が増えた。 ○地域との連携 生徒が自分から「○○について知りたい」という思いをもって、町会役員や商店街の店舗の方、職場体験でお世話になった先などにインタビューに伺った。コロナ渦の中で行事が中止となり、避難訓練や運動会、文化祭といった地域とも関わる機会がなくなった年において貴重な機会になった。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	（グループ G の生徒） ○生徒 A のワークシート記述内容より（抜粋） ○最初の興味・関心と理由 「地域の魅力は何なのかを知りたい・小学校の時に引っ越してきたため、近所のこともよくわからないから」 ○地域探検で気付いた・思った・考えたこと 「商店街が多くのお客さんで賑わっていた」 「（自分の祖母くらいの）高齢の方が多かった」 ○インタビュー対象・内容 お店の方に 「いつから営業をしているのですか」「どのようなお客さんが多いですか」 買い物をしている（高齢の）方々に 「なぜ商店街を訪れたのですか」「商店街の魅力は何ですか」 町会の役員に 「商店街を盛り上げるために行っていることはありますか」 「昔と今とで変化はありますか」

	○インタビューで気付いた・思った・考えたこと 「商店街にあるお店の中には明治から続く店もあり、スーパーが進出する中、常連客や観光で訪れる方によって利用されている。」「商店街を訪れている人は買い物だけが目的ではなく、お店の人との会話を楽しみにしていたり、通りの活気が好きだったりと愛着をもっていることに気付いた。」「商店街周辺にマンションが増えたことで客が増えた」「商店街主催のイベントを行うことで地域住民が交流することができている」
15. 授業者による自由記述	教師海外研修の国内代替研修に参加し、日本各地で地域に根付いた人々の交流が行われることを学んだ。また現地を訪れることはできなくてもオンラインでつながることができることを体験した。この学びから、まずは所属校の生徒と自分達の地域を知ることに取り組みたいと考えた。今後は他地域とオンラインで交流するなど、地域間交流を通して地域をより深く理解する学習に取り組んでいきたい。その中で生徒自身が、地域と世界との関わりに気付き、考え、行動することでグローバルな視野をもちながら、地域をよりよくするために行動する主権者（＝持続可能な社会の創り手）となっていくことを期待する。そのためにも、今後も研修で出会って先生方や講師の方々との関わりを大切にしながら学び続けていきたい。

参考資料：

（１）令和２年３月 16 日発行板橋第三中 PTA 誌「ゆうかり」『三年間の一番の思い出』を基に作成

三年間の一番の思い出（回答）	回答生徒数（人）	総生徒数（134 人）に占める割合（%）
３年生の運動会	22	16.5
修学旅行	20	15
３年生の文化祭	17	12.7
部活動	11	８

（２）令和２年７月２日第 126 回初中分科会参考資料２
「『ポストコロナ』を見据えた新しい時代の初等中等教育の在り方について」P2
https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/20200702-mxt_syoto02-000008335_10.pdf

（３）平成３０年１０月１日教育課程部会資料２－１
「総合的な学習の時間の成果と課題について」P８、P２
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2018/10/10/1409925_4.pdf

（４）　令和元年９月４日教育課程部会
「平成３１年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/__icsFiles/afieldfile/2019/09/11/1420968_9.pdf

総合的な学習の時間（３年生）「中学生の“チカラ”プロジェクト」

○　縁切り榎

総合的な学習の時間（３年生）「中学生の“チカラ”プロジェクト」

○　縁切り榎（インタビュー）

訪れた方に

縁切り榎隣のお蕎麦屋さんに

総合的な学習の時間（３年生）「中学生の“チカラ”プロジェクト」

○　仲宿商店街

どのようなお店があるのか？なぜ愛されているのか？

総合的な学習の時間（３年生）「中学生の“チカラ”プロジェクト」

○　仲宿商店街

防災対策は大丈夫？　　お年寄りは避難できるのか？

総合的な学習の時間（３年生）「中学生の“チカラ”プロジェクト」

○　仲宿商店街（インタビュー）

買い物をする方に

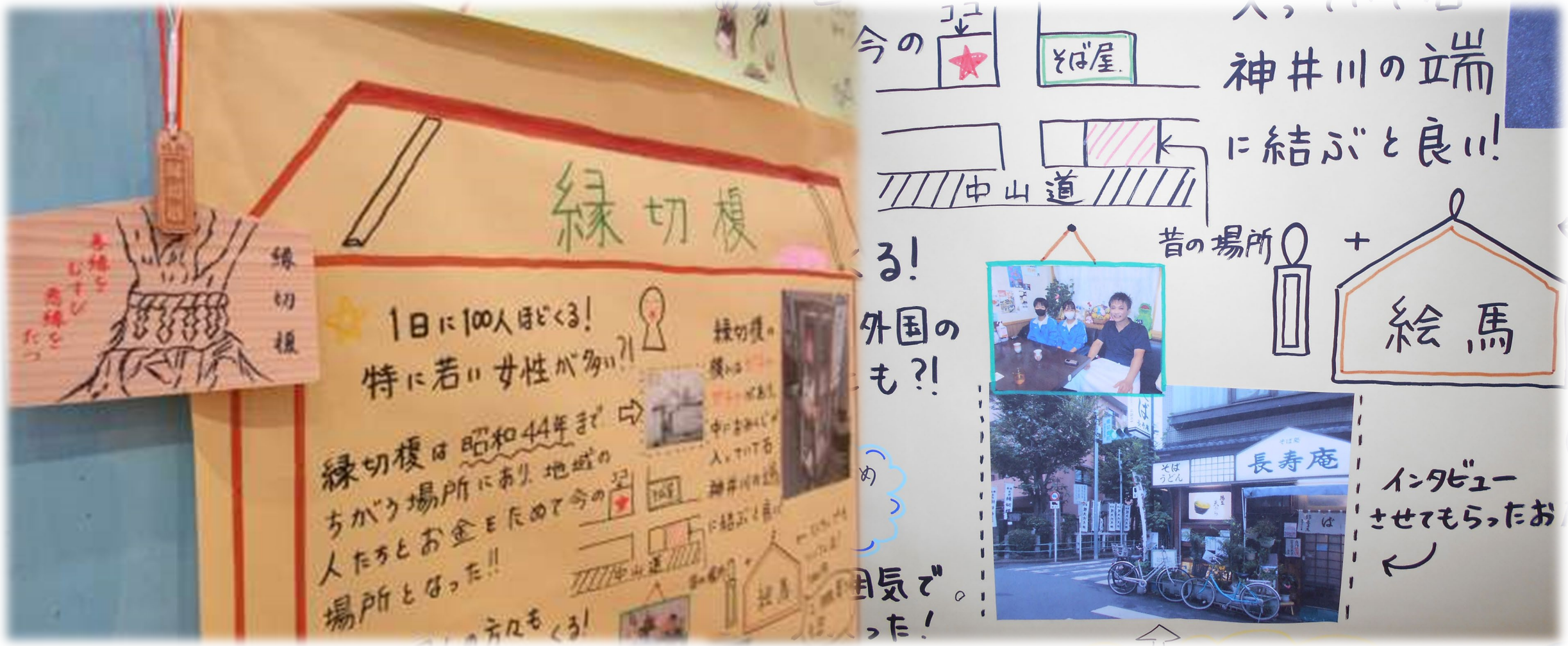
地元町会の会長さんに

“チカラ” プロジェクト

ポスター発表

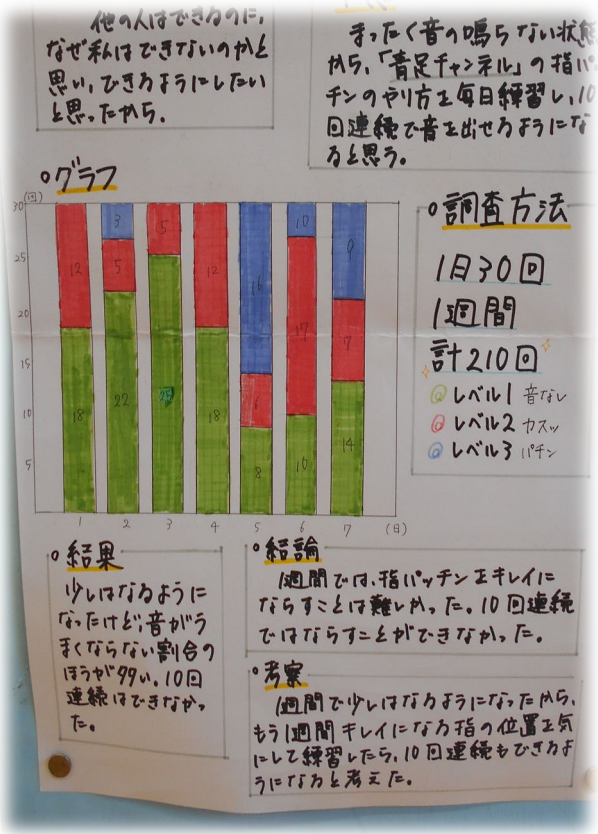
オンライン発表

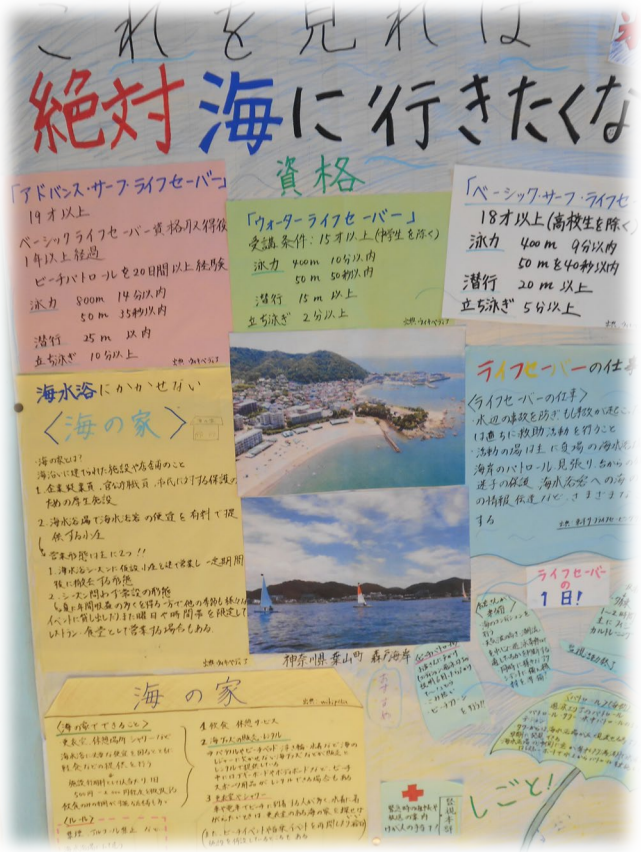
“チカラ” プロジェクト



ポスター発表

“チカラ” プロジェクト





体育科教員　　理科教員　　技術科教員